

1 育成を目指す資質・能力 (1) 言語を活用し基礎から応用に居たる正しい知識を身につけるとともに、自ら課題を見出し解決する力を育む。(考え抜く力) (2) よりよい社会の創造を目指し、自らの考えを表現し、他者と協働することのできる力を育む。(協働する力) (3) 志を高く持ち、新しいことや難しいことに挑戦し、自己を寛容させ、やり抜こうとする力を育む。(生き抜く力)	2 重点目標 (1) 全道・全国に通じる進学校としての確立を進める。 (2) 地域の信頼に応え、社会の有為な形成者としての自覚を持った生徒の育成を進める。 (3) 生徒理解に基づく教育相談(ガイダンス機能・カウンセリング機能)を充実させる (4) 管内唯一の理数科設置校としてSSH事業の取組を通して学力の向上を図る。 (5) 学校の教育活動に関する情報の効果的な発信に努め、選ばれる学校づくりを進める。
---	---

3 自己評価結果

領域	番号	評価の観点	そう思う	大抵そう思う	あまりそう思う	思わない	無目	R4 期末	R3 期末との差	R4 中間	R3 期末	参考事項	自己評価内容
教育計画・組織運営	1	「学校教育目標」は、生徒の実態や保護者の願いを踏まえた教育活動全体の指針となっているか。	10	25	2	0	0	3.2	➡-0.1	3.2	3.3	生徒・保護者・地域の実態、職員の共通意識	・職員の研修については、ICTの活用や観点別評価を中心とした研修会を、計画的に実施できた。 ・進路に係る研修会や視察研修への派遣の他、Zoom等を活用したオンライン研修への参加が促進された。 ・勤務時間の割振変更や特別休暇の取得など制度の周知と活用を推進した。
	2	信頼される学校づくりを推進することができているか。	8	25	4	0	0	3.1	➡-0.2	3.1	3.3	教育成果の発信、家庭・地域との連携、開かれた学校、危機管理	
	3	校務分掌や各委員会は適切に組織され機能しているか。	9	21	7	0	0	3.1	➡0.0	3.0	3.1	分掌・委員会の円滑な運営、機能の発揮	
	4	教職員の相互理解のもと、協働する組織体として機能しているか。	7	21	9	0	0	2.9	➡-0.1	2.7	3.0	日常的な職員間の「報告・連絡・相談・確認」	
	5	教職員としての専門性を向上するための研修体制は充実しているか。	4	22	11	0	0	2.8	➡-0.2	2.8	3.0	校内研修の実施や参加状況、校外研修の機会の保障、取組状況	
	6	休暇や休業日の取得など、教職員の働き方や、健康管理、福利厚生について配慮されているか。	13	12	9	3	0	2.9	➡0.0	2.7	3.0	勤務時間の縮減・割振変更、休暇取得の保障、衛生委員会	
総務部	1	学校運営の円滑化に資することができたか。	14	23	0	0	0	3.4	➡0.0	3.2	3.4	職員会議、環境整備、防災、校内研修計画等	・安心メール導入による緊急連絡に一定の成果が見られた。 ・コロナ禍の中、十分とは言えないが学校祭や体育祭での補助ができた。 ・安心メールと連動してウェブページに連絡事項を掲載するなど活用できた。各種アンケートについてもGoogleフォーム等で集約できるように検討を進めたい。 ・奨学金保護者説明会を適切な時期に行えたためその後の事務処理がスムーズであった。安心メールを活用した開催案内などの情報提供を進めたい。
	2	行事の適切な運営・連携を図ることができたか。	17	19	1	0	0	3.4	➡0.0	3.3	3.5	年間・月間行事調整、儀式・集会	
	3	PTA活動の活性化を図り、保護者に対して学校活動への理解と協力体制を進めることができたか。	8	23	6	0	0	3.1	➡0.0	3.0	3.1	PTAとの連携・役員会・委員会・保護者アンケート	
	4	ホームページの適切な管理・運営を図り、教育活動を外部に発信することができたか。	9	21	5	0	2	3.1	➡-0.1	3.1	3.2	HPの運営・更新（各分掌との連携）	
	5	地域や中学校などに対し、学校を開く活動を通して、本校に対する理解を深めることができたか。	16	19	2	0	0	3.4	➡0.0	3.4	3.4	オープンスクール・体験入学会	
	6	各種手続きやとりまとめを円滑に行うことができたか。	13	23	1	0	0	3.3	➡-0.1	3.4	3.4	奨学金、同窓会との連携、業者選定委員会	
教務部	1	単位制教育課程説明、選択科目ガイダンスの充実を図ることができたか。 <i>New!</i> (教育課程について、生徒の実態に応じた検討・実施を図った。)	9	23	5	0	0	3.1	➡-0.1	3.2	3.2	教育課程委員会、類型選択、	・BYODの活用について、電子辞書アプリ導入など1年次を中心に様々な取組がなされた。 ・教務支援システムが更新された中でも大きな問題がなく対応できた。 ・観点別評価についての研修会を実施し、円滑に評価を行えた。 ・無線LANの使用できる範囲が拡大するなど環境整備が進んだ。 ・ICT活用により会議等でのペーパーレス化が進んだ。
	2	生徒自ら学習する態度の育成について、BYODの活用ができたか。 <i>New!</i> (生徒自ら学習する態度を育成する指導は教職員間に研究することができた。)	11	17	8	1	0	3.0	➡0.0	2.9	3.0	新学習指導要領の理解、教科内研修、校内外研修、情報提供	
	3	授業評価などを通じて授業改善を促すことができたか。	6	19	11	1	0	2.8	➡-0.1	2.8	2.9	公開授業、授業評価アンケート、授業改善	
	4	成績処理の正確さ、音聲化の追求ができたか。 <i>New!</i> (成績表を通して成績処理の向上を図ることができた。)	10	17	8	2	0	2.9	➡-0.3	2.6	3.2	校務支援システムの運用	
	5	ICT環境の整備と適切な情報管理ができたか。 (情報機器の備品と情報管理をできた。)	9	21	6	1	0	3.0	➡-0.2	3.0	3.2	情報機器の整備管理、	
	6	ICT環境の整備と適切な情報管理ができたか。	9	21	6	1	0	3.0	➡-0.2	3.0	3.2	情報機器の整備管理、	
生徒指導部	1	礼儀作法と社会規範を守る意識を高く持つ生徒を育てることができたか。	9	23	5	0	0	3.1	➡-0.2	3.1	3.3	日常生活指導、登校指導、身だしなみ指導、巡回指導、全校・学年集会、講演会実施、部活動指導	・いじめ防止プログラムが3年分完成し、いじめ等の未然防止への取組がさらに深まった。いじめの積極的認知に向けて、生徒が相談しやすい環境づくりにさらにつとめたい。 ・多様化する生徒指導への対応のため、生徒指導方針を見直し組織的に対応できるよう検討を進めたい。 ・生徒会活動について、規模を縮小したり工夫しながらすすめることができた。各種ボランティア活動にも生徒の参加が見られた。
	2	いじめのない学校を目指すために、日常的な生徒の人間関係の把握に努め、学校全体で情報を共有できたか。	10	21	6	0	0	3.1	➡-0.3	3.3	3.4	いじめ防止委員会、いじめアンケート、学年・分掌の連携、全校・学年集会、HR指導	
	3	生徒一人一人が主体性を持ち、生徒会活動に参加できたか。	12	22	3	0	0	3.2	➡0.1	3.2	3.2	生徒会行事の企画・運営・参加	
	4	個々の生徒の状況に対応した教育的支援が共通理解のもと行われたか。	9	21	7	0	0	3.1	➡-0.2	3.1	3.3	教育相談、教育活動支援委員会、HR指導	
	5	生徒会執行部を中心に、生徒会活動活性化や課題解決に向けた情報発信を、HRに対して積極的に行えたか。	11	21	5	0	0	3.2	➡-0.2	3.3	3.4	生徒会執行部の指導、委員会指導、機関誌作成、生徒会行事の企画・運営	
進路指導部	1	模擬試験や講話の実施によって、生徒の学力を向上させることができたか。	15	21	1	0	0	3.4	➡0.0	3.3	3.4	模擬試験の実施・分析、講習の計画、教科との連携	・共通テストで多くの科目で全国平均点を上回るなど、講習等の成果が現れた。 ・推薦での合格がここ数年で最多であった（国公立10北大2名、私大24）。 ・大学入試の科目選択の仕方が複雑化していることへの生徒への説明をどのように進めるかが検討していきたい。
	2	集会等によって、生徒の進路意識を高めることができたか。	14	22	1	0	0	3.4	➡-0.1	3.3	3.5	各種説明会の実施、進路希望調査・集計、二者面談、分掌・学年・担任との連携	
	3	進路シラバスの計画通り、3年間を見据えた進路指導ができたか。	12	20	4	1	0	3.2	➡0.1	3.1	3.1	進路指導計画、進路のしおり、各種説明会・インターンシップの実施、分掌・学年・担任との連携	
	4	説明会・面談等を通じて、保護者と連携した進路指導ができたか。	15	21	1	0	0	3.4	➡0.1	3.4	3.3	保護者向け説明会の実施、三者面談、分掌・学年・担任との連携	
	5	進路に関する情報を、生徒・教員に提供できたか。	9	21	7	0	0	3.1	➡-0.2	3.1	3.3	校内研修の実施、研修会の報告、情報提供	
SSH・理数科	1(1)	課題研究に関わる指導の流れを教務部と連携し、学年、担当者に周知し、共有できたか。	5	24	7	0	1	2.9	➡-0.2	3.0	3.2	課題研究の指導方法の共有、SSH委員会、情報提供	・普通科全学年・年次で指導計画を学年・年次と協議した上で提示することができた。探究委員会を組織し、全校体制で28展開の総合探究の指導ができた。 ・課題研究発表会をオープンスクールに組み入れ、地域の中学生への周知ができた。 ・東北研修や海外研修を集中講義的な科目として設定する準備を進めることができた。（R5より開設見込み） ・科学の甲子園に3チーム18名、世界津波の日高校生サミットに2名、北海道高校生防災カフェ防災サミットに8名の派遣を行った。 ・各事業をさらにウェブページ等で発信していく必要がある。
	1(2)	課題研究の流れについて評価の改善を図ることができたか。	8	19	9	0	1	3.0	➡-0.1	2.9	3.1	課題研究の評価方法の共有、SSH委員会、情報提供	
	2	複数教科で作る教科融合型の授業を開発し、専門教科を生かした多角的な視点を育成できたか。	5	19	12	0	1	2.8	➡-0.1	2.8	2.9	教科間連携による授業の実施、新たな授業の開発	
	3	地域と連携し、地域創生、社会創生に参画・貢献できるプログラムの開発ができたか。	13	18	6	0	0	3.2	➡0.0	3.1	3.2	滝川市や企業等との連携、プログラム開発、各種講演会	
	4	成果と課題を明確に示せる事業評価方法が確立できたか。	6	22	9	0	0	2.9	➡-0.2	2.9	3.1	事業アンケート、ルーブリックの作成改善、評価の研究	
	5	校外研修や交流事業等に興味・関心を持たせ様々な機会に多数生徒を参加させることができたか。	13	18	6	0	0	3.2	➡-0.1	3.2	3.3	各種研修・校外活動・大会への参加、国際交流	
6	多様な機会を活用した情宣活動を展開し、SSH事業の成果を広く周知できたか。	12	20	5	0	0	3.2	➡-0.1	3.2	3.3	SSH通信、オープンスクール、理数科PR、HPの活用		
								3.1	➡-0.1	3.1	3.2		